

同志社大学

同志社社史資料センター報



第12号
2015年度

1. 巻頭言：2015年度の報告にあたって
2. コラム：奥村多喜衛が紡ぐハワイ、高知、同志社の絆
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会・シンポジウム
6. 研究活動
7. 第173回新島襄生誕記念会
8. ハリス理化学館同志社ギャラリー
9. 新島旧邸
10. 委員会

2015年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 小林 丈広

NHK大河ドラマ「八重の桜」をきっかけに、当センターに大きな注目が集まると同時に、課題も明らかとなった。また、2015年は同志社英学校開校から数えて140年目であった。そこで、記念すべきこの年は、当センターとしてもそれに合わせたいくつかの企画を進めながら、同時に課題を解決するための地道な作業を始める、いわば再出発の年となった。

ハリス理化学館同志社ギャラリーでは、次のような展示を開催した。まず4月21日から6月21日まで、同志社創立140周年記念と銘打ち第6回企画展「はじまりの地—ラットランドから寺町丸太町、今出川へ—」を開催した。期間中の5月23日には、高久嶺之介氏を招き、公開講演会「新島襄と京都府政の人々—大学設立運動を支えた人脈—」を行った。また、9月26日から11月8日まで同志社大学歴史資料館主催による第7回企画展「縄文貝塚研究と酒詰仲男—没後50年—」が開催された。10月11日に催された公開講演会では、白石太一郎氏、羽生淳子氏、酒詰治男氏による発題があり、同志社考古学の草創期に光が当てられた。さらに、12月8日から2016年2月10日にかけては、第8回企画展「ハワイに高知城をたてた男奥村多喜衛—同志社・ハワイ交流前史—」を開催した。これは、奥村多喜衛生誕150年、同志社・ハワイ交流80年を記念し、当センターと高知で活動実績がある「ハワイに高知城をたてた男奥村多喜衛展」実行委員会との共催で行われた。1月30日には、高知から中川芙佐氏を招き公開講演会を開催した。

一方、「同志社の今」では、2015年3月31日から4月26日まで同志社大学美術部クラマ画会オリエンテーション展、2016年2月13日から2月25日にかけては同志社女子大学学芸学部情報メディア学科二瓶ゼミ卒業研究成果発表展が開催された。同志社ギャラリーが開館して2年が経ち、学生の課外活動やゼミの研究成果を発信する場としても定着しつつある。

さて、同志社創立140周年を迎え、いよいよ150周年が現実のものとして意識されるようになった。当センターではそれに備えて、資料の収集・整理・保存という、大学アーカイブとしての本来業務に本格的に取り組むことにした。『同志社百年史』の編纂以来、数多くの資料が収集されたものの、活用されているのはごく一部である。まずは、それらの整理を進め、将来の編纂事業、あるいは活用・公開に対応できるようにしたい。今後とも、同志社内外の方々のご協力をお願いしたい。

奥村多喜衛が紡ぐハワイ、高知、同志社の絆

中川 美佐

1 奥村多喜衛との出会い

「ハワイ日系社会の礎となった奥村多喜衛という土佐人がいた」。そう聞かされたのは1995年。同志社神学校卒業後にハワイに渡り、伝道、教育、医療、国際関係ほか多分野で活動し、遂には自身が組織したマキキ教会の二代目教会堂として、本物そっくりの「高知城」を建てたという。「驚く」というより、「おったまげた」という表現が相応しかった。そして奥村の資料にあたった。

調べていくうちに、土佐自由民権運動を経てキリスト者となり、ハワイ日系社会で活躍した奥村多喜衛のことを多くの人々に伝えたいという思いが強くなった。幸い、1998年から地元紙「高知新聞」で連載の機会を与えられ、それがきっかけとなり2000年には高知県や高知市の支援を得て、草の根活動として初めての「奥村多喜衛とハワイ日系移民展 土佐からハワイへ」を開催することができた。

同展が終了した後、奥村多喜衛に魅了された有志で「奥村多喜衛協会」を組織し、高知県国際交流協会の傘下で奥村の顕彰活動にとりかかった。その一方で、マキキ教会と高知県人の文化・教育交流も始めた。太平洋を挟んだ二つの高知城に虹を架けたいと願う気持ちから、交流は「レインボーコネクション」と名付けた。

2004年には、マキキ教会創立100周年式典に参加するため高知から20人ほどが駆け付け、それがきっかけとなり2005年から若者の定期交流が始まった。マキキ教会が高知の中・高・大学生を教会のコースキャンプに迎え、高知では私立土佐塾中学・高等学校がマキキ教会の高校生の短期特別研修を行った。レインボーコネクションを通して、ホノルルの高知城に興味を持ち、実際に訪れる人々が増えた。

2 高知と同志社の奥村多喜衛展

奥村多喜衛生誕150年にあたる2015年、奥村多喜衛協会は再び顕彰展を計画した。幸運にも、高知市立自由民権記念館から協力が得られ、同館の開館25周年記念事業として、共催で2015年5月9日から6月28日まで「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛展」というタイトルで開催することができた。高知県在住の模型作家栗田眞二氏がマキキ教会設計図から作り上げた1/33のホノルルの高知城模型が展示に花を添えた。ハワイのチャド・中林氏は、空撮を駆使してマキキ教会を紹介するDVDを制作し、会場を訪れた人を楽しませた。

県内はもちろん、日本各地やハワイから多くの人々を会場に迎えた。奥村多喜衛の弟子として、日本やブラジルなどで宣教師として働いた二世のカワシマ・タミエ師（91歳、当時）も来日し、祝賀会では200人を前に恩師奥村多喜衛の思い出を語った。

展示最終日を明日に控えた6月27日土曜日。会場の受付に「同志社から来ました」と名刺を差し出した人がいた。同志社大学同志社社史資料センターの小枝弘和氏だった。「稗田賢二さんから、高知の奥村展を見てくるようにと言われましたので…」とのことだった。

稗田賢二氏（商学部、昭和34年卒）は、数年前にマキキ教会を訪問したことがきっかけで奥村多喜衛に魅了された同志社校友会東京支部会員。高知での奥村展開会式に参列するため、東京から夜行バスで高知入りをするほど熱い思いを持った支援者だった。

小枝氏の話では、稗田氏は開会式に参加して東京に帰る途次に、京都に立ち寄った模様。稗田氏の熱意に頭が下がる思いだった。

展示をじっくり見た後で、小枝氏は言われた。「大先輩の稗田さんから「高知に挨拶に行ってください」と言われ、それに従って来たのですが、正直言って想像以上の展示でした。奥村はすごい人ですわ…。そして「この展示を見てしまった後では、同志社もなんとかしなければならぬ気がします。京都に帰って考えてみます」。この時の筆者は小枝氏の言葉が読み取れず、「よろしくお願ひします」と差しさわりのない挨拶を返しただけだった。

展示終了後の奥村多喜衛協会の仕事は、マキキ教会への資料返却だった。2015年9月頃が予定されていた。ところが7月になって京都の小枝氏から電話が入った。「同志社ギャラリーで開催する同志社社史資料センターの企画展で、奥村を取り上げることを考えています」。説明では、新島襄は教え子たちが血の塩となることを望んでいた。奥村は直接新島から教えを受けてはいないが、国を越えて、血の塩として働いたことが如実にわかる同志社人なのだそう。ただ、「同志社社史資料センターの企画展には複数の候補があり、最終審査に通らなければならないので、何とも言えません」とのことだった。

奥村多喜衛協会は、長い間奥村のメジャーデビューを願ってきた。同志社での展示などは夢のまた夢。候補に挙がるだけでも嬉しいことだった。加えて、これまでのような土佐自由民権運動から捉えた奥村ではなく、同志社の視点から見た奥村像も、高知の人間には新鮮に感じられた。

その後10月に正式に展示が決定し、12月8日から2016年2月10日まで同志社で奥村多喜衛展が行われたのだ。

3 奥村多喜衛が紡ぐ絆

会期中の2016年1月6日には、マキキ教会ゆかりの人々が国内外から同志社に集まった。「奥村展見学後、同志社近辺でマキキ教会リユニオン(同窓会)を開きたい」という彼らのたつての希望に応じて、同志社から「フレンド・ピース・ハウス:同志社ハワイ寮」がリユニオン会場として提供された。ハワイ寮は、ハワイ伝道会社のリチャーズ夫妻の呼びかけで日本に設立されたフレンド・ピース奨学会が、1936年から同志社に管理を委ねた国際親善のための施設で、1996年度末で閉寮するまでにハワイや米国から派遣された宣教師と同志社の男子学生が生活した。2006年には国の登録有形文化財として登録され、現在は寮としては使われていない。

実はハワイ寮ゆかりのセオード・リチャーズこそ、1904年のマキキ教会発足時から奥村の伝道を支えた人であった。また1928年頃に奥村が立てたお城の教会堂建設案は、ハワイ伝道会社の反対にあった。その時最初にセオード・リチャーズが賛成に回り、他の人々もリチャーズに続いた。彼の支援がなければ、高知城の教会堂は実現しなかったかもしれないほど、リチャーズはハワイの高知城の「恩人」でもある。今回のハワイ寮でのリユニオンをマキキ教会ゆかりの人々が喜んだのは言うまでもない。

展示を終えた今、筆者には同志社での奥村展が、血の塩として働いた奥村多喜衛に対する新島襄からの「ご褒美」で、ハワイ寮でのリユニオンは、マキキ教会で育った人々へのセオード・リチャーズからの「贈り物」のような気がしてならない。

同志社大学での「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛—同志社・ハワイ交流前史」展開催のためにご支援ご協力くださった方々に心からの感謝をお伝えしたい。

注:1932年にマキキ教会の正式名称は「マキキ聖城キリスト教会」となったが、現在でも通称名「マキキ教会」を使用することが多いため、本文では「マキキ教会」に統一した



2016年1月6日
マキキ教会リユニオン参加者に
展示説明をする筆者

資料業務

1. 資料整理

同志社社史資料センター網別蔵書冊数 (逐次刊行物は除く)

(2016年3月31日現在)

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	1	54	214	36	82	4	41	28	106	1,676	2,242	19.6%
1 哲学	16	8	218	33	25	150	48	21	85	1,381	1,985	17.4%
2 歴史	62	1,067	105	39	0	33	0	0	1,067	219	2,592	22.7%
3 社会	127	162	150	146	9	12	158	2,012	16	24	2,816	24.6%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	60	239	2.1%
5 技術	11	13	54	9	8	4	5	8	10	15	137	1.2%
6 産業	12	24	1	0	0	2	4	26	10	4	83	0.7%
7 芸術	31	2	85	9	13	23	41	17	25	11	257	2.2%
8 言語	8	74	17	67	9	4	0	2	1	10	192	1.7%
9 文学	30	626	117	93	23	2	0	0	2	1	894	7.8%

※日本十進分類法による分類

総冊数 11,437冊

2. 資料提供 (写真資料を中心に)

株式会社ABCリブラ
 会津若松市観光商工部観光課
 一般財団法人アイヌ民族博物館
 朝日新聞出版
 ドイツ日本研究所
 株式会社エム・シー・アンド・ピー
 株式会社フォーチュンボックス
 一般財団法人福島県教育会館「夏休みの友」編集事務局
 株式会社元気な事務所
 株式会社浜島書店
 いのちのことば社フォレストブックス
 株式会社岩崎書店
 ジーグレイプ株式会社
 京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課
 公益財団法人京都YMCA
 株式会社教文館出版部
 毎日放送
 有限会社マイストリート

株式会社ミネルヴァ書房
 桃山学院史料室
 株式会社中川紙宗
 株式会社ネクサス
 株式会社NHKエンタープライズ
 一般社団法人日本看護学校協議会共済会
 「新島襄その心」制作委員会
 株式会社ぱど
 株式会社オフィス三銃士
 株式会社オメガ社
 株式会社プラメイク
 歴史春秋出版株式会社
 株式会社ロム・インターナショナル
 埼玉県立近代美術館
 株式会社三光デジプロ
 公益財団法人蘇峰会
 有限会社スタジオ・ジップ
 株式会社小学館「和楽」編集部

株式会社宝島社

株式会社天夢人

株式会社テレビ朝日

テレコムスタッフ株式会社

株式会社東畑建築事務所

東京大学大学院情報学環

公益財団法人東京都看護協会

株式会社トータルメディア開発研究所

株式会社洋泉社

株式会社ザイヤ

博物館実習の受け入れ

【同志社大学の「学外実習」受け入れについて】

本年度は8名の学生を受け入れ、2グループ（第1期 8月18日～19日、第2期 9月1日～2日）に分けて、毎日3時間の実習を行った。実習のテーマは「社史資料の整理」として、啓明館の資料室②に収蔵されている未整理資料のうち、立体物の資料整理作業を行った。学生自身で各資料の資料データの採取（観察、計測、調書作成）を行い、資料カード作成、データ入力の実務を行い、それぞれの資料に適切な梱包を施して出納が行える状態となった。

【同志社女子大学の「博物館実習」受け入れについて】

本年度は3名の学生を受け入れ、8月24日～28日の5日間、毎日6時間の実習を実施した。実習では、①施設・設備、②資料展示、③展示教育、④資料収集、⑤資料調査、⑥資料の取り扱いと保存修復に関する講義と実習指導を行った。今年度の新たな取り組みとして、最終日に模擬展示の実習を設け、企画展示室2での小企画展の立案を行った。新島襄や同志社女学校、寮生活等、それぞれの興味にそった文献を調査し、実習で扱ったセンター所蔵の資料から展示資料を選定して、短期間ながらも労作の企画案が揃った。



展示室における資料陳列の実習風景

展 示

1. 展示活動

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示室

第6回企画展

テーマ：「はじまりの地—ラットランドから寺町丸太町、今出川へ—」
期 間：2015年4月21日(火)～2015年6月21日(日)
主 催：同志社大学同志社社史資料センター
協 力：学校法人神戸女学院、同志社大学人文科学研究所、
同志社大学歴史資料館、同志社大学図書館
来場者数：13,460人
実施日数：50日

ギャラリートーク

日 時：2015年5月15日(金) 13:00～
2015年6月3日(水) 13:00～
場 所：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室
(同志社大学今出川キャンパス)

第8回企画展

テーマ：「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛—同志社・ハワイ交流前史—」
期 間：2015年12月8日(火)～2016年2月10日(水)
共 催：「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛展」実行委員会、
同志社大学同志社社史資料センター
後 援：高知県、高知県教育委員会、高知市、高知市教育委員会、
高知城管理事務所
協 力：マキキ聖城キリスト教会、高知市立自由民権記念館、奥村多喜衛協会、
全国同信伝道会、高知県立高知追手前高等学校、土佐塾中学・高等学校、
清和女子中・高等学校、同志社校友会高知県支部、
同志社同窓会高知支部、同志社大学図書館
来場者数：8,710人
実施日数：47日

展示説明会

講 師：中川 芙佐氏(奥村多喜衛協会会長、高知大学非常勤講師)
日 時：2016年1月29日(金) 15:00～16:00
2016年1月30日(土) 15:00～16:00
場 所：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室
(同志社大学今出川キャンパス)

常設展示室「同志社の今」特別陳列

第7回

テーマ：「同志社大学美術部クラマ画会 オリエンテーション展」
期 間：2015年3月31日(火)～2015年4月26日(日)
主 催：同志社大学美術部クラマ画会
協 力：同志社大学同志社社史資料センター
来場者数：1,626人
実施日数：20日(2015年3月31日含む)



第8回

テーマ：「同志社女子大学学芸学部情報メディア学科二瓶ゼミ
卒業研究 成果発表展」

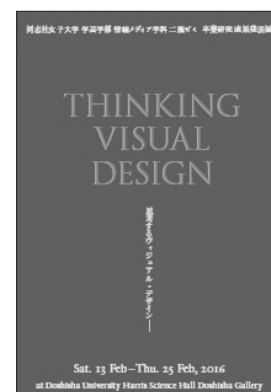
期 間：2016年2月13日(土)～2016年2月25日(木)

主 催：同志社女子大学学芸学部情報メディア学科 二瓶研究室

協 力：同志社女子大学学芸学部情報メディア学科メディアサポートセンター、
同志社大学同志社社史資料センター

来場者数：510人

実施日数：9日



第9回

テーマ：「同志社大学美術部クラマ画会 春の学内展」

期 間：2016年3月29日(火)～2016年5月7日(土)

主 催：同志社大学美術部クラマ画会

協 力：同志社大学同志社社史資料センター

来場者数：352人(2016年3月31日現在)

実施日数：25日



2. 展示協力

新島会館への展示協力

「新島八重の生涯」(2015年4月1日～2016年3月31日)をテーマに、新島八重関係資料(レプリカ)と写真パネルを貸出

「原田直次郎展」への展示協力

埼玉県立近代美術館、神奈川県立近代美術館、岡山県立美術館、島根県立石見美術館が合同で開催する上記展覧会(会期:2016年2月11日～2016年9月5日)へ油彩画3点、ガラス乾板を貸出

地域協力

2016年1月28日(木)、京都市立第三錦林小学校6年生の学外学習で社史資料調査員が尹東柱詩碑ならびに鄭芝溶詩碑を説明。



公開講演会・シンポジウム

ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

「はじまりの地—ラットランドから寺町丸太町、今出川へ—」公開講演会

演 題：「新島襄と京都府政の人々—大学設立運動を支えた人脈—」

講 師：高久 嶺之介氏(京都橘大学文学部教授)

日 時：2015年5月23日(土) 13:00~14:30

場 所：明德館1番教室(同志社大学今出川キャンパス)

参加者：120名



ハリス理化学館同志社ギャラリー企画展示

「ハワイに高知城をたてた男 奥村多喜衛—同志社・ハワイ交流前史」公開講演会

演 題：「ハワイの日本人・日本人社会と奥村多喜衛」

講 師：中川 芙佐氏(奥村多喜衛協会会長、高知大学非常勤講師)

日 時：2016年1月30日(土) 13:00~14:30

場 所：クラーク・チャペル(同志社大学今出川キャンパス)

参加者：97名



マキキ聖城キリスト教会音楽宣教師
(高瀬真理・瑞穂夫婦)による演奏

研究活動

第1部門研究(新島研究)の研究会や機関誌の刊行は次の通りである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 横井 和彦)

第146回例会	2015年4月13日(月) 『新島研究』第106号論評会 「上野栄三郎の生涯—実業の世界に乗り出した同志社寺町時代の学生—」 報告者：大井 純一 論評者：本井 康博 「新島七五三太の書状の取次ぎ依頼をするJ.M.Ferrisの手紙 (1867年4月16日 New York)」 報告者：布施田 哲也 論評者：田中 智子 「同志社「大学設立義捐金募集運動」再考 —取扱窓口となった新聞雑誌についてのスケッチ—」 報告者：田中 智子 論評者：北垣 宗治
第147回例会	2015年5月11日(月) 「新島研究の資料について」 報告者：北垣 宗治
第148回例会	2015年6月8日(月) 「J.N.Harrisの手紙」 報告者：森 一郎
第149回例会	2015年7月13日(月) 「新島襄の教育思想の今日的意義」 報告者：小崎 眞
第150回例会	2015年8月8日(土) 個別報告① 「Julius Hawley SeelyeとLaureus Clark Seelyeの系譜研究 ～初代移民者から現存子孫まで～(14世代にわたる系譜：1630-2015)」 報告者：磯 英夫 企画 同志社創立140周年記念 「同志社創立150周年に向けて—同志社の歴史をどう語り継ぐか—」 報告 1「同志社創立150周年に向けて」 報告者：水谷 誠 報告 2「同志社百年史：二つの弱点」 報告者：北垣 宗治 報告 3「同志社150年史編纂について」 報告者：小林 丈広 総合討論 本井 康博(コーディネーター)、水谷 誠、北垣 宗治、小林 丈広 個別報告②「最晩年の新島襄～大磯の日々」 報告者：大越 哲仁

第1回同志社 を語る会	2015年9月28日(月) 「新島襄の足跡を辿る「近畿編と北陸編」～生野銀鋳、城崎、天橋義塾と北陸旅行の目的～」 報告者：田島 繁
第151回例会	2015年10月19日(月) 「新島襄が祈り支えた「熊本女学校」廃校経過」 報告者：矢崎 邦彦
第152回例会	2015年11月9日(月) 「新島襄研究上の疑問点」 報告者：井上 勝也
第153回例会	2015年12月7日(月) 「新島襄の言語生活」 報告者：大島 中正
第154回例会	2016年1月18日(月) 「創設期の同志社英学校寮生の食生活」 報告者：森永 長壹郎
第2回同志社 を語る会	2016年3月14日(月) 「同志社のスポーツフェアプレーに徹したラグビー部を中心に」 報告者：金 泰成 ゲスト：朝川 浩侑

第1部門研究(新島研究)運営委員会(2015年度)

横井 和彦(代表)、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第107号 A5判 148頁 2016年2月29日発行

論 叢	同志社創立140周年記念シンポジウム	
	「同志社創立150周年に向けて—同志社の歴史をどう語り継ぐか—」	
	同志社創立150周年に向けて	水谷 誠
	同志社百年史の二つの欠点	北垣 宗治
	同志社150年史編纂について	小林 丈広
	シンポジウム総合討論	
	God and the Gorilla: Religion and Science at Niijima's Amherst	Gavin James Campbell
	新島襄と百足屋と愛松園—最晩年の新島が大磯で暮らした場所はどこか—	大越 哲仁
	J.N.Harrisのメッセージ—J.N.Harrisの手紙から—	森 一郎
研究ノート	新島襄研究上の疑問点	井上 勝也
エッセイ	初期同志社生徒の食生活を探る	森永長壹郎
	新島襄と熊本バンドの足跡を辿る—熊本、水俣、阿蘇、柳川—	田島 繁
コ ラ ム	新島襄が帰国するにつき演説をしたラットランドの教会と教会史	松村七五郎

『新島研究』編集委員会(2015年度)

横井 和彦(委員長)、井上 勝也、北垣 宗治、小崎 眞、森 一郎、森永 長壹郎、本井 康博、大鉢 忠、大島 中正、竹山 幸男、富田 正樹、山本 真司

3. 機関誌

『同志社談叢』第36号 A5判 282頁 2016年3月1日発行

論 叢	『万国新話』覚え書 —比較教育的に初めて西欧教育を日本に紹介した先人の軌跡— ミス・デントンが生涯のミッション地を同志社女学校と定めるまで —来日後一〇年余の紆余曲折を経て—	竹内 力雄 坂本 清音
資料紹介	新発見の二通の新島の英文書簡 史料紹介 J.D.DAVISの二通の書簡 徳富猪一郎旧蔵新島書簡草稿について —石川武美記念図書館成篁堂文庫収蔵資料より— 新島襄と福地桜痴—新出資料「福地源一郎宛新島襄書簡」から— 熊本洋学校三級生 <small>(期)</small> 坂上竹松—貴重遺品と洋学校教育—	北垣 宗治 滝澤 民夫 石倉 和佳 布施 智子 竹内 力雄
公開講演会	新島襄と京都府政の人々—大学設立募金運動をささえた人脈—	高久嶺之介
短 信	新島襄の密出国時の服装について	小枝 弘和
目 録	新島襄関連の文献目録(34) 購入資料・受贈資料目録	

『同志社談叢』編集委員会(2015年度)

小林 丈広(委員長)、伊藤 彌彦、大島 中正、横井 和彦

4. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第11号(2014年度)

(2015年4月発行)

『同志社の文化財建築物』

日本語版(2015年10月発行)

『同志社の文化財建築物』

英語版(2015年10月発行)

『同志社の文化財建築物』

中国語版(2015年10月発行)

『同志社の文化財建築物』

韓国語版(2015年10月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集2016』

(2016年3月発行)

『新島襄生誕記念懸賞論文 入選作品集』編集委員会(2015年度)

富田 正樹(委員長)、北垣 宗治、小崎 眞、本井 康博

第173回 新島襄生誕記念会

日時：2016年2月12日(金) 17:30～19:40

場所：同志社新島会館大研修室

表彰

新島研究論文賞 ギャビン・ジェームス・キャンベル(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授)
新島研究功績賞 大越 哲仁(公益財団法人蘇峰会理事)

記念講演

演題：自分探しへのお互いの旅：新島先生とワタシ

講師：ギャビン・ジェームス・キャンベル(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授)

新島襄生誕記念懸賞論文(2015年度)

【中学校の部】

最優秀賞 奥村 夏生(同志社中学校1年)
 「医は愛なり—新島襄の考えた医学・看護教育—」
優秀賞 熊谷 朋乃実(同志社女子中学校1年)
 「資料に見る新島襄の女性観」
佳 作 山添 大輝(同志社中学校1年)
 「新島先生と徳富蘇峰のfaith」
 金山 亜未(同志社女子中学校1年)
 「天父と新島襄、愛の比較」
 柴田 幸歩(同志社香里中学校1年)
 「山本兄妹と川崎尚之助について」

【高等学校の部】

最優秀賞 湯川 哲至(新島学園高等学校3年)
 「なぜ新島襄は上州で受容されたのか
 ～群馬のキリスト教と前橋英和女学校設立の視点から～」
優秀賞 世古口 紘明(同志社国際高等学校3年)
 「今の同志社は新島襄の意思を継いでいるか」
 養田 真世(新島学園高等学校3年)
 「群馬におけるキリスト教の伝播と養蚕」
佳 作 五島 桜子(同志社高等学校3年)
 「尹東柱～空と風と星の詩人」
 小澤 早紀(同志社国際高等学校3年)
 「新島襄と教育理念」

【大学・大学院の部】

佳 作 本山 優紀(同志社大学2年)
 「戦後70年に際しての同志社と戦争の歴史考察」

ハリス理化学館同志社ギャラリー

本ギャラリーはハリス理化学館（1890年竣工、1979年重要文化財指定）を2013年にリニューアルした展示施設である。同志社の歴史と創立者新島襄の今に息づく精神を2つの企画展示室と6つのテーマに分けた常設展示室に所蔵資料を展示して紹介している。



開館時間 10:00～17:00（入館受付は16:30まで）
 閉館日 日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、
 ゴールデンウィーク・夏期休暇・冬期休暇の一定期間
 実施日数 268日（企画展示室は134日）

2015年度入館者数（2015年4月1日～2016年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
総入館者	4,298人	4,680人	5,247人	4,206人	4,879人	3,226人
同志社のあゆみ	2,224人	2,109人	2,118人	1,778人	2,029人	1,480人
企画展示室	2,229人	6,121人	5,110人	—	—	686人
京都の中の同志社	2,987人	3,125人	3,327人	3,829人	4,831人	2,511人
同志社の今	1,841人	1,990人	1,953人	2,206人	3,115人	1,973人

10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
6,644人	6,559人	4,025人	3,844人	3,804人	5,140人	56,552人
2,355人	2,490人	1,585人	1,572人	1,665人	2,821人	24,226人
6,233人	1,467人	3,568人	3,870人	1,272人	—	30,556人
4,131人	3,713人	2,133人	1,907人	2,006人	3,655人	38,155人
2,960人	2,902人	2,303人	2,320人	1,467人	2,920人	27,950人

新島旧邸

1875（明治8）年11月29日、同志社英学校がこの地に開校したことを記念し、建学の精神を体感する場として公開している。新島襄の私邸で、ボストンの友人J.M.シアーズの寄付によって1878（明治11）年に建てられた。1985（昭和60）年、調度・家具類を含めて京都市から有形文化財に指定された。建物の保護のため、公開と保存を両立する形に公開方法を見直し、通常公開は、旧邸の周囲から建物内部を見学に留め（建物内への入場は不可）、特別公開のみ、母屋1階と附属屋への入場を可としている。

開館時間 10:00～16:00
 通常公開 4月～7月、9月～11月、3月の毎週火・木・土（祝日を除く）
 特別公開 春秋の京都御所一般公開期間、オープンキャンパス、ホームカミングデー、
 同志社創立記念日、卒業式

2015年度見学者数

4月	5月	6月	7月	8月
1,356人	647人	582人	600人	85人
9月	10月	11月	3月	
841人	1,637人	2,348人	1,480人	
合計	期間外			
9,576人	467人			



委員会

同志社社史資料センター委員会委員 (2015年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	天野 太郎	女子大学現代社会学部教授
神谷 遊	教務部長	伊藤 博子	中学校・高等学校教諭
吉田由紀雄	事務局長、法人事務部長(2016.3.1～)	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
岡林 洋	人文科学研究所長	平松 讓二	女子中学校・高等学校教頭
植木 朝子	歴史資料館長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
岩田 喬	広報部長	横井 和彦	経済学部教授
北 幸史	法人事務部長(～2016.2.28)		

同志社社史資料センター運営委員会委員 (2015年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(委員長)	天野 太郎	女子大学現代社会学部教授
吉田由紀雄	事務局長、法人事務部長(2016.3.1～)	平松 讓二	女子中学校・高等学校教諭
岡林 洋	人文科学研究所長	横井 和彦	経済学部教授
北 幸史	法人事務部長(～2016.2.28)		

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会 (2015年度)

田口 哲也	副学長(委員長)	西岡 徹	総務部長
小林 丈広	同志社社史資料センター所長(副委員長)	北 幸史	法人事務部長(～2016.2.28)
植木 朝子	歴史資料館長	吉田由紀雄	法人事務部長(2016.3.1～)
竹廣 良司	経済学部長	石川 立	キリスト教文化センター所長
中谷内一也	心理学部長	井上 一稔	文学部教授

ハリス理化学館同志社ギャラリー運営委員会部会 (2015年度)

小林 丈広	同志社社史資料センター所長(部会長)	布施 智子	社史資料調査員
若林 邦彦	歴史資料館准教授	蔭山 兼治	社史資料調査員
浜中 邦弘	歴史資料館准教授	木谷 佳楠	神学部助教
小枝 弘和	社史資料調査員	井上 一稔	文学部教授

事務室	所長	小林 丈広	資料整理	学生アルバイト	交代勤務
	事務長	上田 裕保		大学院生	7名登録
	社史資料調査員	小枝 弘和		学部生	11名登録
	社史資料調査員	布施 智子			
	社史資料調査員	蔭山 兼治			
	契約職員	松村 敦子			
	アルバイト	3名			

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年 2月18日
2012年 2月16日
2013年10月26日
2015年 3月28日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) ハリス理化学館同志社ギャラリーの管理運営に関すること。
- (6) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (7) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (9) その他必要な事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長、企画部長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項についてセンター委員会の要請に基づき、必要な事項を検討する。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が委嘱する者若干名
 - (3) 所長が必要と認めた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。

3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会及び部長会の審議を経て、学長が決定する。

附則)

この規程は、2015年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に基づき、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(利用に関する業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」(法人)と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に基づく。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム (DOORS) に登録された図書とする。ただし、禁帯出図書及び逐次刊行物を除く。

2 貸出ができる者は、以下とする。

- ア) 同志社大学学生・教職員
- イ) 同志社女子大学学生・教職員
- ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
- エ) センターが設置する部門研究の参加者
- オ) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

(附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第12号

発行日 2016年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://archives.doshisha.ac.jp/>

表紙写真：左) 私塾開業願(1875年8月4日)／結社人として新島襄と山本覚馬の連名で京都府に提出した願書の草稿
右) ラットランドのグレイス教会から1984年に寄贈された新島襄肖像画(石版画)